

名前 「

」

天人てんにん なか もの中に持たせたる箱あり。天あまの羽衣はごろも入れり。またあるは、

不死ふし くすりいの薬入れり。一人ひとりの天人てんにん言ふ、「壺つぼなる御薬みくすりたてまつれ。

穢きたなき所ところの物ものきこしめしたれば、御心地みこころ悪しからむものぞ」とて、

持もて寄よりたれば、いささか嘗なめたまひ給ひて、少すこし形見かたみとて、脱ぬぎ置おく

衣きぬに包つつまむとすれば、ある天人てんにん包つつませず。御衣みぞを取り出いでて着きせ

むとす。その時とき、かぐや姫ひめ、「しばし待まて」と言いふ。

「衣着きぬきせつる人ひとは、心異こころことになるなりといふ。もの一言ひとこと、言いひ置おく

べきことあり」と言いひて、文書ふみかく。天人てんにん、「遅おそし」と、心こころもとな

がり給たまふ。かぐや姫ひめ、「もの知らぬことなのたまひそ」とて、い

みじう静じゅうかに、おほやけに御文おんふみたてまつり給たまふ。あわてぬさまな

り。